

最終報告書レポート

東南アジアのへそ

バンコクの町を歩いていると突然マーケットにでくわす。タラートと呼ばれるこのマーケットは生鮮食品から洋服にアクセサリー、雑貨、ご飯、コピーDVDやおもちゃ屋さんまでなんでも揃っていて、所狭しと並べられた商品の量と目まいがしてしまいそうになる。値段も非常にリーズナブルでTシャツ一枚が100バーツ(約350円)といった具合だ。こういった市場が非常に身近にあるのがバンコクで過ごしての第一印象だった。

タイは東南アジアの中でもシンガポールに継ぐ経済力を誇る。東南アジアのへその位置にあるタイはシンガポール同様、物流の拠点になっている。交通網も発展しており近隣諸国の工場で作られた製品があつまってくる。タイ自体も工業国であるのに加えベトナム、カンボジア、ミャンマー等から様々なものが集まってくる。



2015年11月からアセアン経済共同体(AEC)が発足され東南アジアはますます活発な貿易が促進され周辺国への輸出が拡大、今後ASEAN域内はさらに成長するだろう。バンコクは巨大ショッピングモールの発展も著しく、滞在中にサイアムで新たな商業施設のオープニングが行われており。その様子を少しだけ見ることができた。アセアン経済共同体の発足等の活気が滞在中に少しではあるけれども肌で感じることもできた。

また、タイの市場について事前にリサーチしようとしたときに、タイでの仕入れに関する記事をたくさん見つけた。バンコクで見た市場の風景は、私達の身近にあふれる商品の一部がここを拠点にしてやってくるというある種の実感を得られるものだった。アニメーション作品『スーパーマーケット』では身近に並ぶ商品達がいつ、何処から来たのかという想像力からストーリーを展開していきたいと考えており、大きなインスピレーションを得られることができた。



2015年11月からアセアン経済共同体(AEC)が発足され東南アジアはますます活発な貿易が促進され周辺国への輸出が拡大、今後ASEAN域内はさらに成長するだろう。バンコクは巨大ショッピングモールの発展も著しく、滞在中にサイアムで新たな商業施設のオープニングが行われており。その様子を少しだけ見ることができた。アセアン経済共同体の発足等のグローバルな経済の流動の活気を、少しではあるが肌で感じることもできた。

バンコク ポップカルチャー

今回の受け入れ先のPahparnさんはバンコクのThe Jam Factoryというギャラリーのキュレーターの方だった。

The Jam Factoryはバンコクでも非常におしゃれなスポットでアート関連の雑貨や本が並ぶショップとカフェもありバンコクのアートに興味のある若い方が集まっていた。Pahparnさんからはバンコクでのアートの事情と、周辺のギャラリー、そして日本ではほとんど情報のないタイのインデペンデントアニメーション作家に関して話を聞いた。アニメーション作家に関しては私が期待しているような活動をしている方のお話は聞く事が出来なかった。

Pahparnさんを訪ねた次の日の夜がちょうど、バンコク中のギャラリーでThe Creative District Gallery Hopping Night というイベントを行っていると教えていただいた。バンコクのアートギャラリーは非常にたくさんあり、その日はバンコクのギャラリーを夜中はしごしながら楽しむという趣向だ。そのようなイベントを通してその活発さと身近さを実感した。

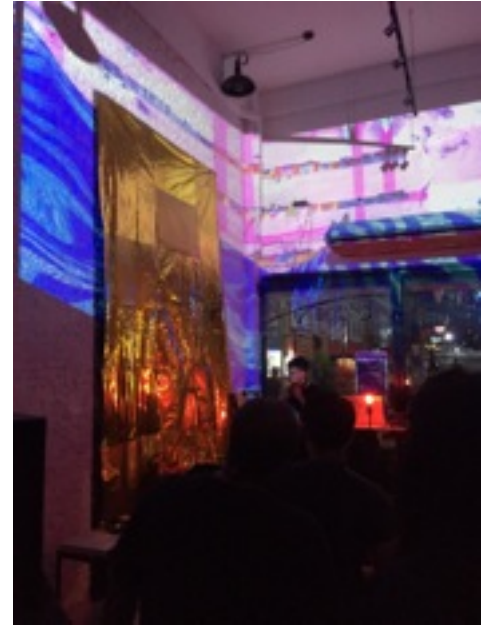
Bangkok Gallery Hopping Nightでは、PLEARN PAN PERTHさんのタイの古典楽器と電子楽器をミックスしたパフォーマンスを鑑賞することができた。バンコクの若いアーティスト達が集まり熱気溢れるイベントだった。

そのイベントで大学の先輩であり、バンコクで照明演出等で活躍されている上田剛さんと再開することもできた。バンコクのアーティストやミュージシャンを紹介していただき、現地の作家達と交流と繋がりを持つ事ができた。

バンコクのインディーズ音楽シーンでは非常に人気のあるガールズバンド "YELLOW FANG" といった最新のバンコクポップカルチャーを紹介してくださり非常に刺激的な滞在となった。

バンコクのアートや音楽に興味ある人達の知識やファッションやセンスは非常に洗練されていて、誰もが、勉強熱心であることが非常に印象的だった。そんなバンコクのポップカルチャー、そして作家やミュージシャンの方と交流を持てたことで新しい視野と価値感覚を得られたと思う。

これは、今回の滞在で得られたもののなかでもとても重要なものになった。



▲バンコク中のギャラリーでパフォーマンスやDJ等のイベントが夜に行われた



▲バンコクでは毎週末様々なイベントが行われていて、情報を得て追いかけるのも大変だそう
写真はタイで人気のインディーズバンドYELLOW FANG

タイの映画史を通して

世界中にインデペンデントアニメーション作家を見つけることはできる。
ただ、いままでタイのインデペンデントアニメーション作家の話を知ることがなかった。
今回の滞在で、タイのアニメーションシーンのようなものかThai Film Archiveにて
タイの映画史を含めて知る機会を得た。

Thai Film Archiveでは戦前からタイの映画史を学ぶミュージアムがあり
そこでタイ最初の常設映画館をはじめたのが日本人興行者であったこと等、タイと日本の映画の関係性が初期の頃からあることを知る事もできた。また、タイの名映画監督であるアピチャポン・ウィーラセタクンの作品が政府から規制を受け一般映画館での配給上映ができない（僧侶がエレキギターをかき鳴らすシーンを国が良く思わなかったということらしい）という状況等も知る事ができた。

タイのアニメーションの第一人者であるPayut Ngaokrachangのスタジオが再現された部屋もミュージアムで見ることができた。



▲TAHI FILM ARCHIVE



▲タイの映画史に関する様々な資料が並ぶ

Thai Film Archive はThai Short Film and Video Festivalを主催しており、そこにアニメーション部門があるということだった。
Film Archiveの Sanchaiさんからお話する機会を頂き、タイのインデペンデントアニメーション作家と、彼らを取り巻く状況についてお聴きした。Thai Short Film and Video Festival のアニメーション部門に作品を応募してくる方はタイの美大生がほとんどで内容はそこまで充実したものではないことが多いのが正直なところだそう。

また、美大でアニメーションを作る人はいてもそれを続ける人は少ないという状況らしい。これはアニメーションの制作は時間がかかる上なかなかお金につながりにくいという点で日本と同じ状況だと感じた。

そんな中でも、[Chanon Treenet](#)さんや、[Kraisit Bhokasawat](#)さん、[Twatpong Tang](#)さんといったタイのアニメーション作家の活動を知る事ができたのは、今回の滞在で大きな成果だった。



▲タイアニメーションの第一人者
Payut Ngaokrachangさんの撮影台

シンガポール・タイ滞在を通して

『スーパーマーケット』という作品をつくりたくて、東南アジアの物流のハブであり文化的要素も強いバンコクとシンガポールを今回滞在先として選んだ。

私が普段から見てるスーパーマーケットに並ぶ商品達がどこから来ているのか、という想像の力をアニメーション作品にのせるにはどうしたらいいかを悩みながらの滞在となった。

バンコクにもシンガポールにも驚く程色彩豊かできっしりともものが溢れた熱気あふれる市場が存在していた。その色味や風景や雰囲気を感じて味わえたことは、大きな体験となった。

また、それぞれの国で切磋琢磨しながら活動するアーティスト達、彼らを取り巻くポップカルチャーの鮮やかさを体験できたことは今後も作家活動を続けていくうえで大きく背中を押してくれた。

この滞在を通して私は今までとは違った角度の視点を得る事ができた。滞在で得た知識、交流、経験を活かしてアニメーション作品『スーパーマーケット』を完成させるよう邁進していきたいと思う。

ひらのりょう

Siam Discovery

<http://www.siamdiscovery.co.th/>

THE JAM FACTORY

<https://www.facebook.com/TheJamFactoryBangkok/>

BANGKOK CITYCITY GALLERY

<https://www.facebook.com/bangkokcitycity/>

The Creative District Gallery Hopping Night BANGKOK

<https://www.facebook.com/galleryhoppingbkk/>

THAI FILM ARCHIVE

<http://www.fapot.org/en/home.php>